

おばちゃん通信



【こども育成部 公立保育園再編】

横須賀市公立保育園再編実施計画(素案)が報告されました。現在公立保育園は11園あります。うち、鶴が丘、うわまち保育園は移転・統合して(仮称)中央こども園に、森崎、ハイランド保育園は(仮称)南こども園に、追浜保育園は(仮称)北こども園になる予定です。また、逸見、船越、田浦保育園は民営化が予定され、鴨居、津久井、武山保育園は当面は現状通りの運営ですが、今後運営方法などを検討していくそうです。(仮称)中央こども園は令和4年度、市の職員厚生会館をリノベーションし

て開園予定です。1～3階がこども園、4階はファミリーサポートセンター、5階には愛らんどや一時預かり保育室ができる予定です。



【総務部 議員報酬等に関する条例中改正】

令和元年人事院勧告の趣旨に沿った特別職の国家公務員の給与改定の措置に準じて、市議会議員に係る期末手当を増額するために条例が改正されました。

内容としては、令和2年度からの期末手当について、6月期の支給割合を160/100から170/100に、12月期の支給割合が175/100から170/100に改定されました。(議員の期末手当は議員報酬×145/100に、それぞれ今回改定された割合を乗じて計算されます。)また、今回常勤特別職員(市長、副市長、教育長、代表監査委員及び水道事業管理者)の期末手当増額のための条例改正も行われました。

【市民部 コミセン有料化に向けて】

令和2年6月より、コミュニティセンター(以下コミセン)の利用が有料化されます。それに伴いコミセンのうち13館に券売機、6館にレジスターが設置され、貸室の少ない浦賀分館及び長井は、手提げ金庫と手書きの領収書で対応されます。券売機導入にあたっては、入札により業者の決定が行われますが、機器の製造及び設定に期間を要するため、令和元年度中に入札の手続きを行う必要があります。そのため、5年間の機器借り上料として1535万6000円に消費税及び地方消費税額を加算した額が、債務負担行為として計上されました。

有料化後の使用料の年間収入見込みは7747万2720円、有料化後の経常的な年間運営費の見込みは4億1074万6891円となっています。

【政策推進部・こども育成部

ICT利用による業務効率化】

本市は今、ICTを利用し、単純な業務は自動化し、専門的、フロント業務を職員が行うことで、市民サービスの向上を目指しています。定型的なデスクワーク業務をソフトウェア型のロボットで代行、自動化するRPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)や人工知能AIの導入など、実証実験が進められています。導入事例として児童扶養手当の照会事務へのRPA導入があります。今後AI音声認識ソフトウェアの導入、電子申請システムの運用開始などが予定されています。また時期は未定ですが、LINEによるプッシュ型の情報提供なども検討されているそうです。

【一般質問】今回は児童相談所の強化、社会的養護下の子どもの支援、外国につながるのある児童への支援、ヤングケアラーについて質問しました。

問：児童虐待通告の件数は増加の一途をたどっている。虐待通告事例のおよそ 95%は在宅での支援となる。そこで、児童相談所以外の他部署で担っている相談・支援の機能を児童相談所内にも設け、強権的に介入する役割と、相談・支援を行う役割とで明確な役割分担をし、児童虐待対応をしてはいかがか。

答：来年度は、こども青少年支援課、そして児童相談所をこども育成部から独立をさせて、こども家庭支援センターを立ち上げるので、このこども家庭支援センターがまさに児童虐待対応の拠点としてさまざまな役割を担うことになる。

介入後の相談・支援の場面では、虐待者と真剣な意見交換や心を通わせた話し合いが必要となる。よって、介入したケースワーカーが、介入時の実情を踏まえた上で、虐待を行ってきた原因やその解決策を保護者等と一緒に考えて、児童との健全な関係構築を目指すことがケースワークの理想的な姿だと思っている。ただし、どうしても担当のケースワーカーと虐待者との関係がうまくいかない場合があると思うので、スーパーバイザーである係長級職員が間に入り、介入と支援のバランスを図ってまいりたい。

問：虐待を防止するためには様々な支援が考えられる。在宅で家族支援を受けている家族にとって、その生活が維持できるためのサービスは、行政サービスだけで満たせないこともある。そうした家族や地域で子どもを育てている人たちにとって、

子育て自主サークルや子ども食堂、ボランティアによる学習支援などは、子育ての孤立を防ぎ、虐待を予防するという観点からもとても意味のあるものだと思う。そこで、地域での子育てサークルや子どもの居場所づくりの活動を継続するための支援を検討してはいかがか。

答：子育て期の支援は、それぞれの家庭の状況に合わせて多様な支援が必要とされていると認識している。地域の皆さんや団体の方々がさまざまな支援を提供してくださっていることに深く感謝をしている。このような活動が今後もぜひ継続されるように、市としても検討を行っていきたい。



問：子どもに関する相談窓口は、24 時間体制の横須賀子育てホットラインをはじめ、児童相談所、療育相談センター、こども健康課、こども青少年支援課、教育委員会支援教育課など、たくさんある。一見充実しているようだが、市民からはどこに相談していいかわかりにくい、という声をきく。相談窓口の統合を検討してはいかがか。

答：現時点でははぐくみかんで適切な案内ができていると考えているが、総合相談窓口の利便性についても理解しているので、相談窓口の統合についても今後ぜひ検討していきたい。

【市内視察報告】会派で久里浜少年院と横須賀刑務支所に視察に伺いました。こういったプロセスを経て入院、入所するのかなどの説明を受け、実際に中を見学させていただきました。本市では令和元年より「再犯防止対策連絡会議」を開き、更生支援のネットワーク作り、情報共有を始めています。なお、犯罪被害者支援についても現在本市議会の政策検討会議において課題の一つとしてあがっています。

おばたさおりプロフィール インターン生募集しています！ご興味ある方はお問い合わせください。

1985年10月3日生まれ。平作小、池上中、横浜市立金沢高校卒業。UCLA政治学部卒業。学習塾、フリースペース勤務を経験。2015年横須賀市議会議員選挙にて初当選。会派：よこすか未来会議
移動事務所：080-1161-4031またはinfo@obatasaori.com ブログも更新中です！